

教員氏名	都 恩珍	職 位	教授
最終学歴	平成15年3月 博士課程満期退学		
学 位	修士（言語学）（筑波大学）		
役 職	学部長	委員会	
担当科目	韓国社会と文化、韓国語と文化、Seminar、韓国語検定対策、言語学特論（大学院）		
作成した教科書・教材または教育方法の実践例（主要3点）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニングの一環として韓国の大学と実施する遠隔交流会を定期的に紹介し、参加を推進した。</li> <li>・日本語学習者に合わせた構成の教材『どきどき韓国語（朝日出版社）』の開発段階からかかわり、監修を勤めた。</li> <li>・「韓国語検定対策」を通して韓国語学習の成果を可視化することに力を入れた。その結果、受験者数、合格者数ともに増加し、最上級合格者をも出した。</li> <li>・「アジアの社会と文化」「地域研究V」のオリジナル資料を作成し、分かりやすく面白い学修支援を試みた。</li> </ul>		
教育研究業績（主要5点）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『シニア世代のオンライン日本語学習支援活動』 <i>Journal of the School of Liberal Arts</i> Vol.20, 2023</li> <li>・豊明中学校 教職員研修会報告「日本語の指導が必要な児童生徒」の日本語指導について『桜花学園大学観光総合研究所事業報告書18号』2023</li> <li>・韓国語教育に関する研究(2) - 文字学習段階における初級学習者の誤用分析 - <i>Journal of the School of Liberal Arts</i> Vol.13, 2020</li> <li>・海外の日本語学習者に日本文化をどう教えるかーアクティブラーニングを取り入れた授業の試みー <i>Journal of the School of Liberal Arts</i> Vol.8, 2016</li> <li>・接触場面におけるあいづちについて - 感動的あいづちを中心に - 『日本語学論説資料』第52号、論説保存会、2015年</li> </ul>		
所属学会（主要3件）	日本語教育学会、国際韓国語教育学会、社会言語科学会 朝鮮学会		
社会的活動（主要3件）	・財団法人日韓文化交流基金維持委員		